

講演会

新出土文献による 中国学の展開

日時……平成30年（2018）2月10日（土）

午後2時～5時30分

受付は午後1時30分から

場所……大阪大学豊中キャンパス文学部中庭会議室

主催……中国出土文献研究会

共催……漢字学研究会、中国古算書研究会

参加費…無料

申込……大阪大学中国哲学研究室（06-6850-6111（内線2128））まで、締切は2月2日。

新出土文献の発見により、中国学研究は大きく展開しています。その最前線の研究成果を中国の新進気鋭の研究者3名に発表していただきます。



講演

(1) 郭永秉

（復旦大学出土文献与古文字研究中心教授）

「再談《性自命出（性情論）》篇「室性者故也」句的釋讀問題」

(2) 曹方向（安陽師範学院文學院講師、大阪大学特任助教）

「清華簡『管仲』と伝世『管子』との対比研究

—各段の主題語を中心に—

(3) 肖芸曉（アメリカ・プリンストン大学東亜系博士課程）

「清華簡の復元・保存と使用」

【講師紹介】

郭 永秉（かく えいへい）

1980年、上海生まれ。復旦大学出土文献与古文字研究中心教授。2007年、復旦大学歴史系博士課程修了。博士（歴史学）。専門は、出土文献・古文字研究。主な著書に、『帝系新研』（北京大学出版社、2008年）、『古文字与古文献論集』（上海古籍出版社、2011年）、『古文字与古文献論集続編』（上海古籍出版社、2015年）などがある。

曹 方向（そう ほうこう）

1985年、湖南省岳陽生まれ。安陽師範学院文學院講師。2013年、武漢大学歴史学院博士課程修了。博士（歴史学）。専門は、出土文献・古文字研究。主な著書に、『甲骨文読本』（鳳凰出版社、2017年）、『清華簡研究』（共著、湯浅邦弘編、汲古書院、2017年）、『秦簡牘合集（貳）』（陳偉編、共著、武漢大学出版社、2014年）、翻訳に、『竹簡学入門』（陳偉著、湯浅邦弘監訳、草野友子・曹方向訳、東方書店、2016年）などがある。

肖 芸曉（しょう うんぎょう）

1989年、北京生まれ。武漢大学国学院修士課程修了、2016年よりアメリカ・プリンストン大学東亜系博士課程在籍。専門は、出土文献・古代書籍史。主な論文に、「試論清華竹書伊尹三篇的關聯」（『簡帛』第8輯、2013年）、「清華簡收卷研究舉例」（『出土文献』第7輯、2015年）、「清華簡《算表》首簡簡序及收卷形式小議」（『簡帛』第10輯、2016年）などがある。